

【講演者】山本真鳥（法政大学 教授）

【コメンテーター】岸上伸啓（国立民族学博物館 教授）

サモアの女性財とされるファイン・マットは、女性がパンダナスの加工した葉を細かく裂き、半年から1年以上もかけて手で編んで作った、女性の労働力を凝集した繊細な儀礼財である。第二次大戦後に始まる海外移民の拡大は急速に進み、今日現地に住む人口より、海外在住サモア人人口が凌駕するまでになった。海外移民コミュニティの拡大に伴い、彼らの送金は故郷に大きな影響を残した。現金の注入により、儀礼交換はますます派手なものになったが、一方、ファイン・マットは、海外では得られない貴重財として、送金の反対給付として海外に流れていき、海外でも儀礼交換が行われるようになった。それに伴い、ファイン・マットはどんどん質を落とし、大量のファイン・マットが海外に送り込まれるようになった。1980年代、90年代に作られたファイン・マットは、従来の美しさや繊細さが失われ、単に現金を引き出すための「引換クーポン」になってしまっていた。

潮目が変わったのは、新しい世紀になった頃からである。文化復興の動きと共に、従来の目の詰んだ美しいマットを作ろうというキャンペーンが始まった。しかし、そのようなマット製作のインセンティブは現金収入と結びつけることによって行われた点がかつてとは違っている。1980年頃からのフィールドの観察を通じて得た、ファイン・マットの歴史とそれを通じたサモア社会の変遷について考察を行う予定である。

【日時】

2017年4月14日（金）

18:30 開演（18:00 開場）

【会場】

京都大学 稲盛財団記念館

3階大会議室



会場へのアクセス（京都大学薬学部構内）

【備考】

- \*京都人類学研究会は京都を中心とする関西の人類学および関連分野に関心をもつ研究者・大学院生がその研究成果を報告する場です。
- \*事前の参加予約は必要ありません。どなたでも自由に参加いただけます。
- \*当日は資料代として200円いただきます。
- \*講演会後に懇親会を予定しております。

【お問い合わせ】

京都人類学研究会事務局：kyojinken2016@gmail.com

\*代表：平野（野元）美佐

\*代表補佐：田中 雅一

グローバル化する互酬性

サモア世界の儀礼財と現金の循環

